

岸構成員から素案に対するご意見

第5 林業労働力の確保の促進を図るための施策

3 林業事業体の体制強化を図るための施策

(5) 通年雇用化の促進

●意見 苗木生産は冬期間の仕事が無く大半が季節雇用となっていることから、労働力は安定した雇用を求めて他産業へ流出していく。

年間を通じての仕事、特に冬期間の仕事が必要で、これが無いと労働力の確保と事業所の経営が成り立たない。

◎北海道独自に冬期の仕事を創設しなければならない

○ 種苗生産に関する労働力の現状・課題

高齢化、労働者不足が急激に進行している。

原因 ・地方で働く人が減少している

労働力が他産業や都市部へ流出しており、労働力の高齢化と減少が進んでいる。

・屋外での作業が大半を占める

春と秋の苗木の出荷作業を始め、ほとんどの作業が屋外で行われ、特に人力による除草は夏場(8月中旬ころまで)の炎天下での作業となることから、体力と精神力を必要としており、若者が苗畑を敬遠する大きな要因となっている

・苗木の堀取り等重労働が多い

苗木の堀取りや日除け資材の設置や撤去は機械力も使用しているものの、人手による作業も多く、取り扱う物は重量があるため厳しい作業を強いられる。

★労働者不足と高齢化により作業効率が低下し、生産性が悪化してきている。

今後、個々の苗畑での労働力確保が難しくなれば、これまでの苗木生産量を維持することが困難となり需要に対応することが厳しくなると考えている。

★小規模な生産者は地元を中心に、大規模な生産者は地元と近隣の市町村を中心に、不足する労働力をシルバー人材センターに求めるなど、労働力の確保に非常に苦労している。

○ 行政への要望

種苗 現状で作業員の減少

対策 コンテナ苗の導入

クリンラーチ等カラマツ類苗木のコンテナ苗生産により対応

効果 雇用期間の拡大による生産量の増、作業員の通年雇用化

・別紙 カラマツ育苗スケジュール

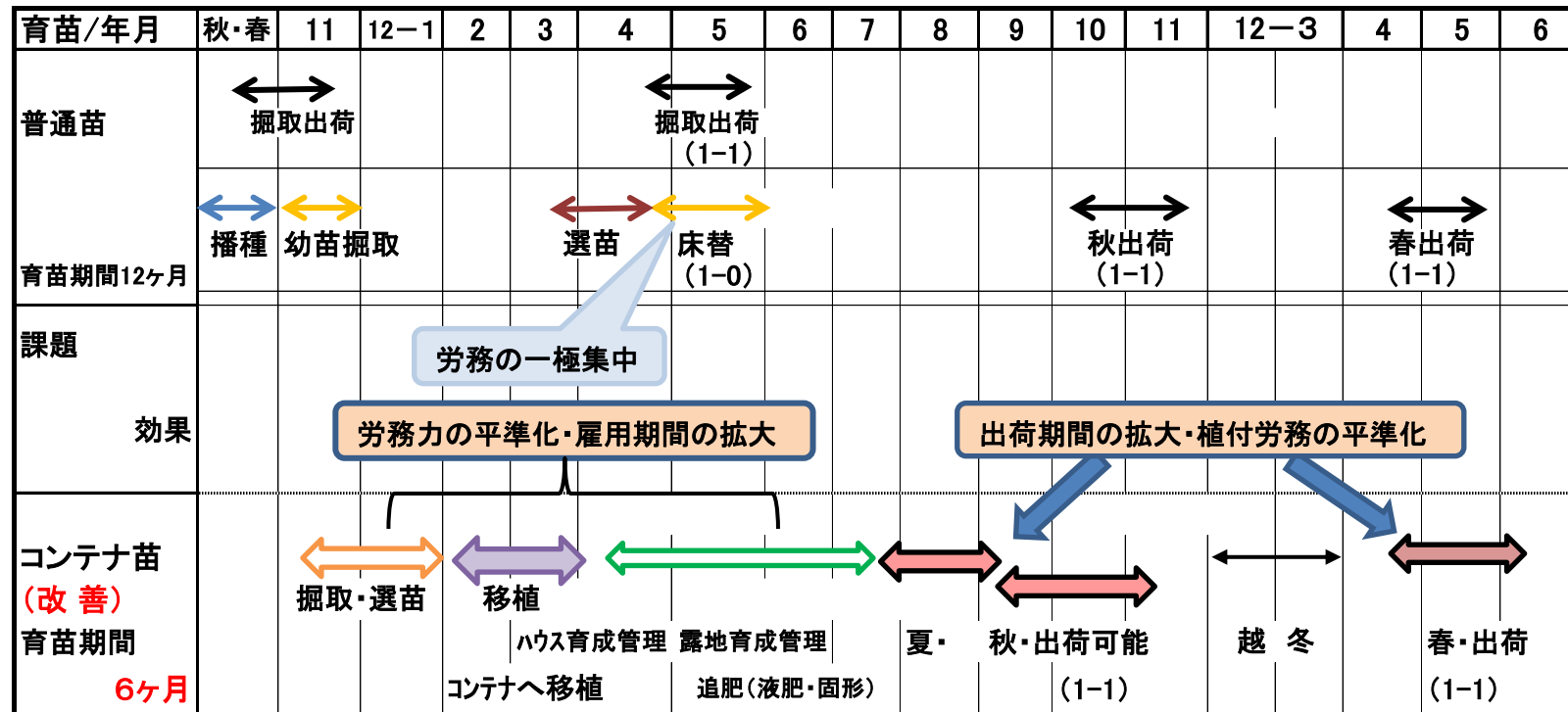
◎コンテナ苗生産に移行するための行政による施設整備に対する助成が必要

○ その他意見

・苗木生産は森林づくりの原点であり、非常に重要な位置を占めているが、不安定な需要の中で生産者が減少する一方で、コンテナによる苗木生産など新たな生産技術を求められている。

・北海道は大規模な生産者が多いため、大型の施設(保冷库・灌水設備等)整備等に対する支援が必要である。

カラマツ育苗スケジュール



現状・課題

- ① カラマツ出荷量の増加
27年需給 カラマツ885万本 > トマト457万本
28年春カラマツ幼苗床替え 1,460万本
- ② 労務の一極集中 (4~5月)
- ③ 高齢化、労働者不足
- ④ 売上額の減少
- ⑤ コンテナ苗への需要高まり

改善の取組

- ① カラマツコンテナ苗生産への取組み
カラマツ幼苗移植150万本 → 100万本出荷体制
- ② 労務期間の分散・平準化

期待できる効果

- ① 安定供給・出荷期間の拡大
- ② 労働力の平準化 (苗畑・植付労務)
- ③ 雇用期間の拡大
- ④ 苗畑経営の安定化